



## ひなまつり



子どもたちが元気に優しく、健やかに育つことを願って、ひなまつりを行いました。乳児院の玄関にはひな人形が飾られ、散歩に行く時など、子どもたちは興味津々でした。お人形の顔を触ってみたり、気になるお道具に手をのぼしたり、怖くて泣いてしまったり…賑やかな様子を、おひな様たちは毎日、見守ってくれていました。また各保育室には、子どもたちの制作した可愛いおひな様も飾られ、お部屋を華やかにしてくれました。

3月2日に、ひなまつり会を行いました。パネルシアターを行ったり、職員がピアノ&フルートの演奏で、子どもたちへプレゼントをしてくれました。皆じっと真剣にみつめ、「あかりをつけましょぼんぼりに〜♪」と大きな声で歌ったり、手拍子をしたり、ゆらゆらと踊ったりと、素敵な時間を過ごすことができました。

保育士 仲田



## ひなまつり行事食



今年のひなまつり行事食は、春らしい色合いを意識して献立を考えました。土台をエビピラフにし、おひな様とおだいり様の顔はゆで卵、髪は海苔、着物は薄焼き卵と海苔、冠はピックで装飾しました。土台のエビピラフの周りには、いり卵・菜の花・花型人参・花型チーズを散りばめました。お吸い物には花麩と三つ葉を入れ、春の色合いです。

お煮しめは、ごぼう・蓮根・大根・椎茸に、絹さや・花型人参・花型生麩・姫竹を添えてグッと明るく仕上げました。子どもが喜ぶ定番のミートボールは甘酢あんかけです。デザートは菱餅をイメージした三色ババロアで、いちご・ミルク・抹茶の三層です。

食後に各保育室から「おいしかったよ」「かわいかったね」「子どもたちが喜んで食べたよ」等の感想をいただけて、とても嬉しかったです。今年もなかなか良い反響がありました。

調理師 田村



## お食い初め



お食い初めとは、子どもが一生、食べ物に困らないことを願い、赤ちゃんが初めて食事の真似をする儀式です。一般的には生後 100 日目に行います。男の子なら朱塗りの漆器に祝い膳を用意します。

当乳児院でもお食い初めをしています。ベビードレスを着てお写真を撮り、生まれて 100 日を迎えたことをお祝いします。子どもたちの成長を喜び、節目となる行事を大切にしています。

保育士 山下



## 赤十字幼児安全法講習会

3月7日に乳児院の会議室において、赤十字幼児安全法講習会を開催しました。今年も乳幼児の心肺蘇生法を中心に行いました。前半は、身近に起こる事故や緊急時の対応について学び、後半は実際に人形を使って心臓マッサージやAEDの実習を行いました。和気あいあいとした中にも真剣さがあり、あっという間の3時間でした。

当乳児院では、子どもの命を守る勉強会として、年に1回、赤十字幼児安全法講習会を開催しています。どなたでも参加できますので、ぜひ多くの方に体験していただきたいと思います。

看護師 一松



## 予防接種について



当乳児院では毎週火曜日と木曜日に予防接種を実施しています。予防接種は各自治体からお知らせや予診票が届き、生後2か月を過ぎた頃から始まります。

予防接種には生ワクチンと不活化ワクチンがあり、生ワクチンを接種した場合は次の予防接種ができるまで4週間、不活化ワクチンの場合は1週間、開ける必要があります。

子どもたちにとって大切な予防接種を、適切な時期に接種できるよう、乳児院では予防接種のスケジュール管理を行っています。また、子どもが予防接種を受けられる体調か否かを、当日の医師と看護師が確認し、安全に接種していけるよう配慮しています。

看護師 清水



## はじめまして！（新入職員の紹介）



今年の2月から家庭支援専門相談員として勤務しております。これまで児童養護施設や療育施設で子どもたちの養育や療育支援に携わってきました。子どもたちやご家族との関わりの中で、日々、多くのことに気づきをしていただいております。何卒、宜しくお願いいたします。

家庭支援専門相談員 村井



昨年の秋から乳児院でお世話になっています。一生懸命に遊び、食べ、笑い、時には泣いて成長していく子どもたちの姿に喜びを感じています。どうぞ宜しくお願いいたします。

保育士 金田



昨年の9月から乳児部でお世話になっています。まだまだ出来ることも限られていますが、子どもたちの「楽しい！」「嬉しい！」の瞬間が少しでも増えることを祈りつつ、がんばっていきたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

保育士 法領田



## たくさんのご寄付に感謝いたします

あたたかいお気持ちありがとうございました。

清水浩・森田美智子・岡崎博子・SPジャパン・明治神宮崇敬婦人会・一般社団法人日本レコード協会  
宮本ユリヤ・鶴沢富喜子・芝仏教会・カナダ大使館・日本ベビーフード協議会・横尾典子・松本妙典子

（順不同・敬称略）



## 編集後記



さあ新年度の始まりです。新しい目標に向かって、元気いっぱい、笑顔いっぱいで前進しましょう。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

# 元気いっぱい!!



日本赤十字社医療センター附属乳児院  
Home for Infants, Japanese Red Cross Medical Center

〒150-0012

東京都渋谷区広尾4丁目1番1号

TEL 03-3400-0147 (代) 03-3400-1311

<http://www.med.jrc.or.jp/nyuji-in/index.html>

## 理念

私たちは、「人道・博愛」の赤十字精神を行動の原点として、子どもの最善の利益を守り、心身ともに健やかに成長できる保育看護を提供します。

私たちは、家族に寄り添い、地域との連携をはかり、家庭復帰を支援します。

## 新年度のごあいさつ

乳児院事務長 齋藤 公仁子

待ちに待った春がやってきました。今年は例年にない厳冬で都心でも大雪が降り、これほど春の訪れが待ち遠しく感じる年もなかったのではないのでしょうか。

「耐雪梅花麗」(雪に耐えて梅花麗し)、今NHK大河ドラマで話題の西郷隆盛の句です。“梅の花は冬の雪や厳しい寒さを耐え忍ぶからこそ、初春に美しい花を咲かせ、かぐわしい香りを発する。苦難や試練を耐えて乗り越えれば、大きく見事な成長が待っている。”というたとえだそうです。

この春、多くの子どもたちが乳児院を巣立っていきました。巣立った子どもたちは、様々な出会いや経験を通じて大きく成長しました。これからもいろいろな出会いや経験があることでしょう。巣立った後の長い人生が、健康で幸せに満ちたものであってほしいと、職員一同、願ってやみません。

子どもたちを取り巻く環境は、地域・家族の変化によって、大きく変わっています。時代の流れと共に、家庭の孤立化が進み、地域で協同して子どもを養育することが少なくなってきました。近年の急速な共働きの増加や育児不安の訴えの増加から、新しい形での養育が求められるようになりました。

このような流れを受け、当乳児院では、この4月から、これまで1名ずつだった家庭支援専門相談員と里親支援専門相談員を各2名に増員しました。

当乳児院の理念である

『子どもの最善の利益を守り、心身ともに健やかに成長できる保育看護を提供する

家族に寄り添い、地域との連携をはかり、養育を支援する』

このことを実践していくため、子どもたちの入所時から、乳児院での生活だけでなく乳児院を巣立った後についても、一人の個として大切にされるべく人生を送れるよう、関係機関とも連携を図りながら支援を行っていきたいと思います。

当乳児院では、この4月も新しい職員を迎えました。新しい仲間とともに、乳児院職員一同、それぞれの役割を通して、子どもたちの健やかな成長のために尽力してまいりますので、皆さまのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。